

「ノート型パソコン用「非純正バッテリーパック」に関するガイドライン」を
「ノート型パソコン用非純正バッテリーパックに関してご注意いただきたいこと」に
名称変更したものである。

ノート型パソコン用 非純正バッテリーパックに関して ご注意いただきたいこと

2010 年 2 月

社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）

パーソナルコンピュータ事業委員会

PC ユーザサポート専門委員会

1. 背景

ノート型パソコンはバッテリーパックを使用することで、外部電源供給のない場所においても利用が可能となっております。

しかし、このパソコンメーカーの純正部品であるバッテリーパックを開封し、内部の電池や基板を交換して利用する、いわゆる「改造バッテリーパック」や「互換バッテリーパック」が登場し、それらを使用したことによりノート型パソコン自体あるいは利用者に対しても、損傷や損害を与えかねない事例が一部のパソコンメーカーより報告されております。

これら非純正バッテリーパックについては、その製品の技術的仕様がパソコンメーカーには不明のため、当然の事ながら、その互換性や安全性については、パソコンメーカーとしては責任を負うことができないという状況にあります。

改造バッテリーパックや互換バッテリーパック等の非純正バッテリーパックのご使用は、パソコンメーカーの保証範囲ではないことを明確にさせていただき、ここに改めてバッテリーパックに関する注意喚起を提示させていただきます。

2. 非純正バッテリーパックに関する基本的な考え方

パソコンメーカーの純正バッテリーパックは、パソコン本体からバッテリーへの様々な監視制御により、パソコン全体として、安全かつ最適な機能を実現できるように緊密な関係を持った設計がなされており、各パソコンメーカーが十分な検査の上、出荷しております。

逆に言えば、改造バッテリーパックや互換バッテリーパック等の非純正バッテリーパックは、パソコン本体の設計/制御情報がどの程度反映されて製作されているか、その使用でどのような結果が生じるのかが分からないために、非常に危惧される状況だと言わざるを得ません。

(「付録」参照)

非純正バッテリーパックをご使用になった場合、誤動作や本体故障等の影響を及ぼす可能性があります。場合によっては、安全性に関わる問題が発生する可能性も否定できません。万一このような問題が発生した場合、当然の事ながら、パソコンメーカー保証の範囲外となり、パソコンメーカーは、純正バッテリーパックの使用を強く推奨しています。

JEITAは、非純正バッテリーパックの使用に関して、広く業界として注意喚起が必要と判断しており、その想定されるリスクについて、パソコンの利用者に対し注意喚起を行うと共に、社団法人電池工業会などの関連業界団体とも連携して、関係各位に働きかけを行っています。また、パソコンメーカー、販売店、パソコン利用者に対する依頼内容を明確にすることで、具体的な注意喚起・啓発活動に繋げています。

3. 注意喚起の仕方とその内容について

注意喚起の仕方として、バッテリーパックを交換する際には純正のバッテリーパックと交換すべきことを、マニュアルとバッテリーパックの両方に記載することを推奨します。

パソコンメーカー毎に異なる表現が記載される事で、利用者に誤解が生ずることを避けるために、以下の文章を推奨します。なお、パソコンメーカー各社の記述においては、各社の文書上の統一性を計るため、文章表現の変更は各社の判断に委ねます。

① マニュアルへの記載

今回はバッテリーパックに対する記述としていますが、パソコンメーカー各社において交換不可能でかつ内蔵する電池を対象としているパソコンがある場合には、「バッテリーパック」の記述を「電池を内蔵する機器」等の記述で置き換えてください。また、記述において、発火注意マーク等の記載は各社の判断に委ねます。

【マニュアルへの記載例】

バッテリーパックを指定する方法・環境以外の方法にて使用した場合には、発熱、発火、破裂する等の可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、充分ご注意ください。

- バッテリーパックはパソコンのマニュアルに記載されている充電方法以外で充電しないでください。
- お使いのパソコン用の正しい AC アダプタを使用していることを確認してください。
- バッテリーパックを分解、改造しないでください。
- バッテリーパックを火中に投下する、火気に近づける、加熱する、あるいは高温状態で放置することはしないでください。
- バッテリーパックを落下させる、ぶつける、先の尖ったもので力を加える、強い圧力を加えるといった衝撃を与えないでください。
- バッテリーパックの金属端子のショート（短絡）や水、コーヒー、ジュース等の液体に濡らすことはしないでください。
- バッテリーパックは消耗品です。バッテリー駆動時間が短くなった場合には、純正の新しいバッテリーパックと交換してください。（なお、「短くなった」という表現を例えば「初期の駆動時間に比べて半分程度になった」というように具体的に記載することについては、各社の判断に委ねます。）
- バッテリーパックを保管する場合は、できるだけ湿度の低い冷暗所で保管してください。
また、子供の手の届かない場所に保管してください。

- バッテリーパックを処分する場合は、（メーカーのサービス窓口やリサイクル窓口の名称）にお問い合わせください。

② バッテリーパックへの記載

バッテリーパックについては記載スペース上の制約もあり、記載範囲については各社の判断に委ねます。

【バッテリーパックへの記載例】

- 衝撃を与えないでください。衝撃を与えたバッテリーパックは、使用をやめてください。
- 駆動時間が短くなったバッテリーパックは純正の新しいバッテリーパックと交換してください。
- 分解・改造、火中への投下・加熱、および高温での使用・放置をしないでください。

なお、可能であれば、以下の記述を入れることを推奨します。

- 指定の充電方法以外で充電しないでください。
- バッテリーパックの金属端子をショート（短絡）させないでください。

4. パソコン関連業界及び関連団体への協力依頼

* 下記の各依頼事項について、速やかな推進・対応をお願いします。

＜パソコンメーカーへの依頼＞

JEITA に加盟していないパソコンメーカーも含めて、マニュアル、ホームページ等でのパソコン利用者への使用上の注意喚起をお願いします。

＜パソコンの販売関連団体への依頼＞

非純正バッテリーパックの使用により、万一事故等の問題が発生した場合、パソコンメーカー保証の範囲外であることを、ご販売時、ご購入者に対して、ご説明いただきますようお願いします。

バッテリーパックに対する制御は、パソコンの制御の中でも特に安全性の観点で重要な機能の一つです。

- 安全性の観点から、パソコンではバッテリーパックに対する過充電、過電圧、過放電、温度異常、内部短絡、放電電圧異常、充放電回数等、さまざまな監視制御を行っています。これらの制御はバッテリーパック内の制御回路だけでなく、パソコン本体側の制御回路、制御ソフトウェアとの密接な関係の下で行われています。

当該パソコン本体に関する詳細の設計/製造情報が無いにもかかわらず、バッテリーパックに改造を加えることは、異常発熱や発火、破裂等の事故発生の危険があります。

- バッテリーの残容量は、パソコンのシステムの動作と密接な関係にあります。さまざまなバッテリーに関する情報を元にバッテリーの残容量は計算されています。また、バッテリーの残容量に合わせて、パソコン本体内でもさまざまな処理が行われています。

当該パソコン本体に関する詳細の設計/製造情報が無いにもかかわらず、バッテリーパックに改造を加えることは、バッテリーの残容量に適した処理ができないため、突然の電源切断やそれに伴うファイル破壊や、起動できなくなるなどの故障の原因となります。

- パソコンの使用にあたっては、パソコンメーカー指定のバッテリーパックを正しい使用方法で使用する必要があります。誤った使用を行った場合、異常発熱、発火、破裂などの恐れがあります。また、バッテリーパックの液漏れや性能/寿命の低下につながる可能性があります。
- 非純正バッテリーパックの中には、バッテリーパックのケースや内部の基板等はパソコンメーカー純正バッテリーパックの部品をそのまま使用し、内部の電池のみを交換したものもあります。更に、交換する電池も純正バッテリーパックと同じ電池を使用しているケースもあります。

この場合、外観等からは非純正バッテリーパックと見分けることができない場合があります。純正の新しいバッテリーパックと交換することを推奨いたします。